

志野流香道海書

770
シ
12

0 150 cm 10 20

SEKISUI JUSHI



目錄

第一輯

一 香道初學十五箇條

一 十二月經香之書

一 蜂谷象香道統書

第二輯

一 六國列香傳并五味之傳

一 一日十經之式

一 十經十箇條習

一 二十經十四箇條

第三輯

一 桂合香傳并真行草灰書

一 同香盆之習并

一 考袋内總括之事

○ 名考六十一種 并 記号白紙
朱紙

一 指枝袋錯取之事

一 思羽包錯取之事

一 原皮圖錯取之事

一 邊物錯取之事

一 礼筒大小錯取之事

一 十種考名錯取之事

一 因祥尼所重之事

一 因筒紐錯取之事

一 袋柄錯取別名之事

一 銀路柄錯取別名之事

一 書院柄錯取之事

一 扇筒錯取之事

以上

○ 平八目編外ノ係ナリ

志野流香道目錄開書

一香爐灰調板之事

是常式格古相口知レハ箇條卷

頭第一ノ何ソ今少シ大切ノ一

可也ノ所此香爐灰調板ノ事

ラハセテ子細アリ其故ハ調合

調ヨリシテ一適ニ起ルヤ

輕ニ似テ輕キニアラス尤灰調板

香爐ノ安其外其時ノ宜ニ依テ

成トイハ此所ニ云常式用正灰調

板ナリ外灰仕ヨハ夫レ傳有レ故

畧ス常式用ユル香爐ハ青磁ニ好

ニ足ノ香爐本注トス先ニ足常式

香爐ノ内一足ヲ正面ニイタス可

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

ト云ハ模様ナトノマレハ模様ノ正面ナル
是ノ所ヲ一足ト云模様各キハイツ
レ成リトモ一ツ足ヲキワム(一ツ足ノ
定ル所ハ海ノ定ル所ニテ知ル(一ツ
於テ灰ヲ五合ニ割但五合ニ割ハ真
ノ灰ナリ五合ニ割下ハ先ツ香ニ五行アリ
万物ニカケサル者ナリ其故ハ先香燭ヲ
世界トサタメ灰ヲ土トシ其内ニ火ヲ生
ケテ上ニ銀ノ葉ヲ並ツ是土火金ノ三
ツナリ香ニ水木アリ沉水香ト云テ真
傳ニマリ水木ヲ合セ是ニテ五行ナリ
一通ニテハ木ナリト可心得ナレ六國
ノ傳ニ水ノ有説ヲ知ラスナリ全体木
ナレ水ヲ合テ唇ナリ扱テ小節ヲ押

7、池流ニテ自然ニ香銀葉ヨリス
リ落ル時ナト右ノ小節ニテ止ナリト云
成禮左取ノ為ニモ宜シケレ左取ノ
為ナリニテモ右ノ火節ノ五合ハ
陽節ニテ羊ナリ小節ハ陰ノ節ニテ
下ニ分ナリ是ヲ以テ陰陽全体ニメ
祝儀ノ灰トス香燭ニ大小中アリ免
前節ノ義ハ十節ニ極ム易経ニ依テ
斗ル所ナリ易ニ十合アリ縦ハ天一生水
地六成ノ類下界又合ノ節モ通善等
陰ニトス或ハ四合ナリ
凶事ノ香燭忌中ノ時ナト經高ノ時
ノ香燭ナリ是ハ六合ニ割テ押スナリ
小節ヲ下ノ節ニ割ル是ニテ陰ニ

ナル但六合外香爐ナリ常ノ香爐ハ
四合ニテ小筋ヲ偶數ニ押ス是不
祝儀ナリ是ニテ陰々ノ灰トス六合能ク
候(凡多紋三足ノ香爐ニテハ表筋不
出来ニ候故畧ニ致シ候

出陣ノ香爐是ハ五合ニ割押テ小筋
ヲ羊ニス陽々ニ成ル紐多ナトノ付ハ
凶事ノ香爐六合ニテ押ス付ハツ足モ知
レ難キ故正面ノ間ナカ知レヌニ依テ當
世ヤハリ四合ニテ小筋モ丁ニ致ス出陣ハ
陽々凶事ハ陰々ト可心得小筋ヲ見テ
可知

足ノ多キ香爐ハ陰陽ノ二筋付ナリ
床ニ飾モ其通ナリ足有リノ畧灰ハ

正面ノミルニ間ナカト云テ一筋付ナリ足
多キハ間方ニ二筋ナリ床ニ飾ニ六合生
類斗ニアラス六角其外ニモ是有候又足
多キハ床ニ飾ルモ紐香モイワニテモ二筋
ノ灰斗リニ御座候

紐シ一概ニモ不可云景物ノ模様ニ依
リ傳有リ人形ナラハ真向ノ人形ヲ表ス
八卦香爐足アルケニカイレシ正面ナリ座
ニ紐有ル時ハ最神斗真ノ灰ニ押シ二紐
目ヨリ畧灰ナリ亭主ニ座スレハ年際ノホ
トモ初ノニテ知レルソレ故ニ紐目畧灰ナリ
客ニ度目ニ香本致ストテモ宜ク出来テ
亭主ノ不礼亭主トクラヘモノニスル振
テ懸シトカリ畧灰ナリ足多キ香爐ニ

テモ八卦香爐ナトテハ取斗ニ有ルヘシ
婚禮ハ離ノ卦ヲ忌移徒ニ火ノ卦キラ
ウ水ノ卦ナハカシノ卦ヲ用ユ

一同炭生様火合^モ漆香爐之事

是モ穆古手煎ニテ相知ル^テ灰ヲ丸
合ニ入一面ニ張クサラシ灰ト炭團ノ寸小口
ナク同様ニ成ル扱ニスレハイクワニテモ火合
ノ違ツ^テナシ往古炭團ヲ用ユ然ルニ炭
團ノ製法至テ六ヶ敷候故中古絶ヘ
タリ然ル^ラ先師宗先再ヒ炭團ヲ製
ス中古ノ切炭ハ火持悪ク強弱ア^ラテア
シ、炭團生ルニ灰ノアケ扱ハ炭團ヲ生
タケニ火取箸ニテアケルナリ横ニシテア
ケレハ宛大キウナルナリ

漆香爐 是ハ人数多キレハ二ツノ香
爐ニテ之リモ遠キ^ニ其上殊ノ外ヒ
ニ取り候時ハ餅リノ外ニイクワモ
出スナリ全休香爐ハ一ツノ古法ナリ
然ル^ラ宗信十種香ヲ始メシヨリ
多人数ニツニテハ不貞故對香爐ト
名付テ十種香ニハ二ツヲ組入レラレタ
リ先達ノ定シモノユヘ對香爐ハ真ノ
灰ニス其外ハ畧ノ畧故漆香爐ノ
類灰ヲ畧灰ニスルナリ七八人迄ハ二ツ
ニテモヨシ夫ヨリ多人数ナレハ漆香爐
用ユ

畧灰ト云ハ小筋ヲ不付正面ノニルシ
ニ一筋^ノ間ナト云テ是ヲ付ルナリ依テ

漆香爐ノ義ハ最初ヨリ 礼答ノ
内(モ不銹地敷席(モ不銹ナリ漆
香爐ハ礼答ノ脇ニ置ク對香爐ハ
仕舞テ地敷席(直ス仕舞時ニモ心
付可有ナリ仕舞ニ漆香爐ハト
ハ張リテハ惡シ最早ニ三種ニナツテ
能キ時分漆香爐ハノケ置キテ對
香爐ニツ仕舞ニ戻ル候ニ割合ラスル
ナリ

春秋ハ香爐ノフナカラ三分アカルナリ
極暑ニナルト灰ヲ高フ盛リカキ上
ルナリ極寒ノ時ハ灰ヲヒキフシテ火ヲツ
ヨクセ子ハナラヌナリ勿論時節見合
火合ノ第一ナリ

一火取香爐火取箸之事

火取香爐ハ東山殿時代ヨリ有ル
一尺木ハフセ香ニツカイシ瓦ノ香炉ニ
多ク留メル者ナリカヤウノ畠香炉ト
云、衣裝束ニ香ヲ留ルナリ外ハ矢倉
ノ取メヌリシ者ナリ其外極々眞傳ニ
ナリ又香炉ナリノ時ハ穗屋ヲカケテ
用ユ夫ツ火取香爐ニ用ルハ東山殿
御物好ナリ火取ト云名ハ香爐ノ越名
和名ナリ今用ユル香爐ハ火取ト云云
是ハ火取香炉ト名合リナリ例ノ古
書ニモ火取ヲ捧ケヌハ御持合ノ香ヲ
焼キ玉フト香炉ヲアケルト云和名ノ
故事ヲ張シタメ和漢ノ支名ヲ所メ

名付シラ知ラシメ玉フ者ナリ
火取形ヲアコタト云ナリ形ハアゴダ瓦ノ
根ナル故ナリ上ニ掛ルヲ火舎ト云

火屋ニテモ能シ形ハ是ニカキラストイハ
東山殿御用ノ火取アゴダ故其ノ後ハ
都テコノ形ヲ定用ス

火取著ノ義ハ東山殿ノ御時代キリ
コ頭ト云南蠻物ノ名物ナリ只今テハ其ノ
写シナリ行儀ハ火ヲ生ル迄ノ業ナリ火ヲ
生シ後ハワカハヌナリ又仕舞ニ火ヲ火取
入ル時ノ道具ナリ夫故火取ノ名ナリ

東山殿ノ此南蠻ヨリ献上スル箸ナリ風
雅ナル物ナレテ茶席ニハ小サク又火筒ニ
立テハ大キク折カラ火取香炉御物好

ノ砌ナレハ取不取被添ナリ火取香炉
ニ添ル故火取箸ノ名ラツケラレシナリ本
名切子箸ナリ

一香爐請取渡モ聞換之事

右ノ手ニテ取リ在手(葉)外ハ廻シ一ツ
足ヲ正面(メ)頂キ指ヲ掩ヒ白晝ヲ入レ
聞ナリ聞キ終テ内(廻)シテ次(一ツ)足ヲ
向ケ渡スナリ廻シ換ハ初ノ方戻ス心ナリ
次ノ香炉ヨリハ不度メ聞方ナリ向テ
渡スナリ上座ヨリ香炉ノ来ルトキ次座
挨拶メ香炉ヲ可請取次座ノ挨拶
并ニ頂クトモ最初一炷斗リナリ香炉ヲ
頂クトハ久ノ香(一)頂クナリ銘ノ香
ナレバ頂カメナリ此香炉モ古代ハ手渡シ

二致ナリ 左ノキニノセタルキヲソルナリ
請取モノ又左ノキヲヒスト其上ノセル
ナリキノ上ニテ渡スナレモ近代取落
スハ取落サ子尼銀葉スベリ 芥メアア
キユトニ置テ渡スナリ 水ノ式ハ近代不
用ナリ 小座ニテハ今モキ渡シ能
モ故ハ二座セハク 膝ヲ屈シ 二座ニテ
イテハ 脇タキ扱ナリ 今茶席ニテハ 惣ニキ
渡シナリ 別ニ組多ノ茶是ナリ
小座系 躰カハ 児女ナトニハトニシイテ渡
ストアリ 是アアキユナリ 今ハイツレニモ
トニテ請取渡スナリ
貴人ニテ位ハ多 盆ニテ多ガヲ奉ルナリ
右モ本式ハ取次人アリ 直ニト御挨拶ア

ハ取次ナニ直ニ奉ルナリ 其上ニモイヤ盆
ヲヤメテキニテト御申ノ時ハ 左ノ平ニ
棄セタルキヲソテ奉ルナリ 坊ノ眩ヲ
ツクナリ 又ニ貴ノ児女方ハ 是非盆ニ
テ上ルナリ
二座ノ内大臣方平ノ堂上^子ニ被成 御座
時ハ 右ノヨリ渡所ハ 平堂上ニ被成 御
座大臣方ノ御取次ナリ 節ハ 右ノ
ヨリ平堂上ニモモ盆ナリ 平堂上ヨリ大臣
方ハ尚ヲ盆ナリ
天子ニ組多御聞被成候時ハ 別多ガ
ア試ナレニツ 試ヲコエラハツノ識ヲ天子
ハアケツ試ヲ和ハスナリ 天子ハ奉ルハ
多ク致方在之候トナリ 可謚尺貞信

アリ

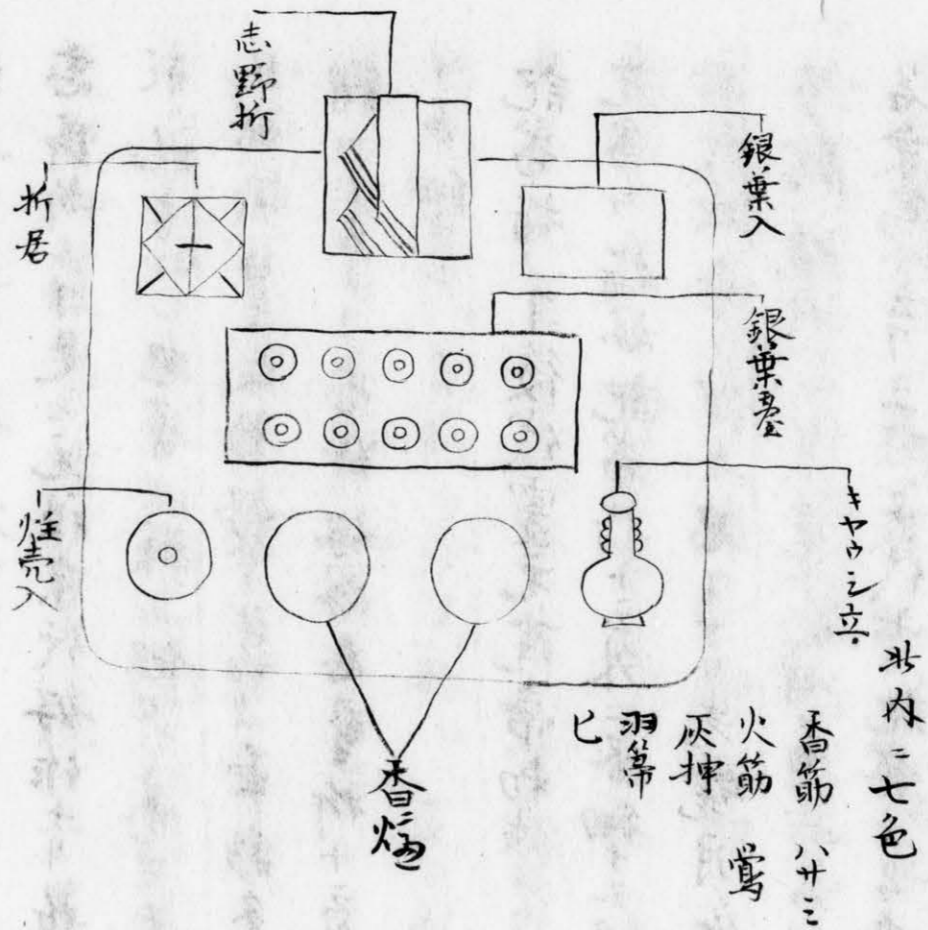
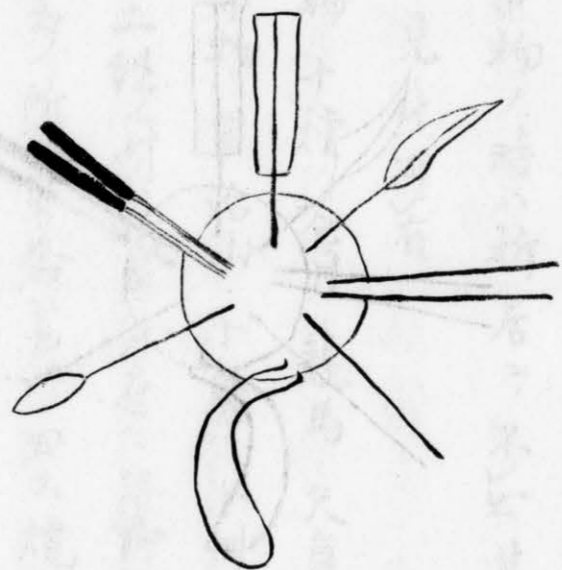
香盆舟ヲコクト云テ廻シテ持行ナリ也
一モ眞傳アリ御舎ノ式故畧ス之
一礼者内錯在志野折記帛指錯之事
元世礼者ト云ハ大肉ニテ御物ト云
亦形小サキハ御菓子模ノ如入ラレト
具ニテ礼者ト云武家ニテハ廣蓋ナリ
然ルヲ宗任モ瓶ヲ以テ瓶ヲ定メ礼
者ノ文字ヲモ倭礼者ト名ケルナリ
全体物ノカケガフニメ世下重ハ有職ノ
ニシテ大切ノ品故不願一説ニ官女ニ
夜分御寝ナルニ世者ヲ枕ノ上ニ置
キ長カモモシテ入テ伏シ玉ツト故ニ礼者
ヲ入ル故内礼ノ者ト云ナリ兩説共

然ニ儀本法ノ礼者世涯高ク深シ寸
法ハ宗任好ナレモ古物ナリ

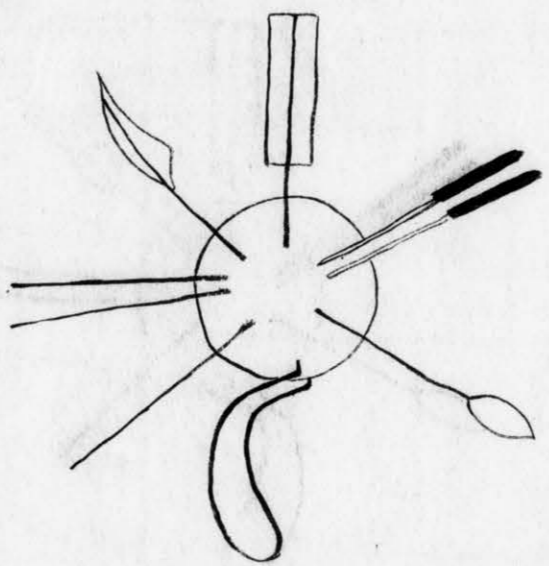
志野折ノ一是モ元祖宗任好作ナリ折
瓶礼方フシ包苧ノ瓶ニ似タリ充モモ
折形面白キ故物好テ箱ヲ正彩子
繪ヲ書タリ志野好故志野折ト云
ニ子細ナシ

記帛指ノ一後代靈元院帝初作ナリ
記帛ヲ指故記帛指ト云外ニ子細ナシ但
此箱状帝ノ深キ思名アリ先曉月郭
公繪ハ曉月ハアケテ見ル心時鳥ハ裁名ヲ
名乗鳥ト云一ニ寄ル代世ノ記帛ヲ名乗
紙云リ上ニ裁名ヲ名乗而マケテ内ヲ見モ
ノ一モ心ヲ箱模ニ被仰付者ナリ

近代如斯三候(近代改)申候



只今ノ致様左ノ通可用之



尾品先太守御覺歌アリ

火着ヒガニ香帛本香着羽子灰押ヲ左リ廻リ

記帛物ノ時ハ折居ヲ不レ公其ノ時ハ錯リ

横ニ見テ可有

札物十種 花月 競馬 矢負名所 十柱

記帛物 宇治山 小鳥 小州 源氏

一在二組ノ時ハ折居ノ座ニ志野袋ヲ入レ

兼第ノ所ハ重香帛ヲ入ス焼カラ入ノ座ニ

折居ヲ入ッ

一在二組ノ時ニテ一端ノ取合第一ナリ外香具角

成物多キ時ハ時宜キニヨリ志野折ヲ止メ

初ヨリ志野袋ヲ用テ有是ヲ錯時宜

ト云先志野袋ハ一在二組ノ時ノナリ

志野折錯所

記帛指飾所ハ重硯ノ上定座ナリ但シ
礼装ノ内ニ飾ルモノアリ是習之先ハ飾
物ニアラス硯ノ上ニ置テ且ニ折居ノ座
ニ記帛飾ル

大小ノ礼装ハ人毎ニ異テ飾物ニアラス
亦具飾少キ時ハ大ノ道具ニテモ小ノ礼
装ニ飾ルアリ又小道具ヲ道具多ク
時ハ大ノ礼装ニモ飾ルナリ口傳

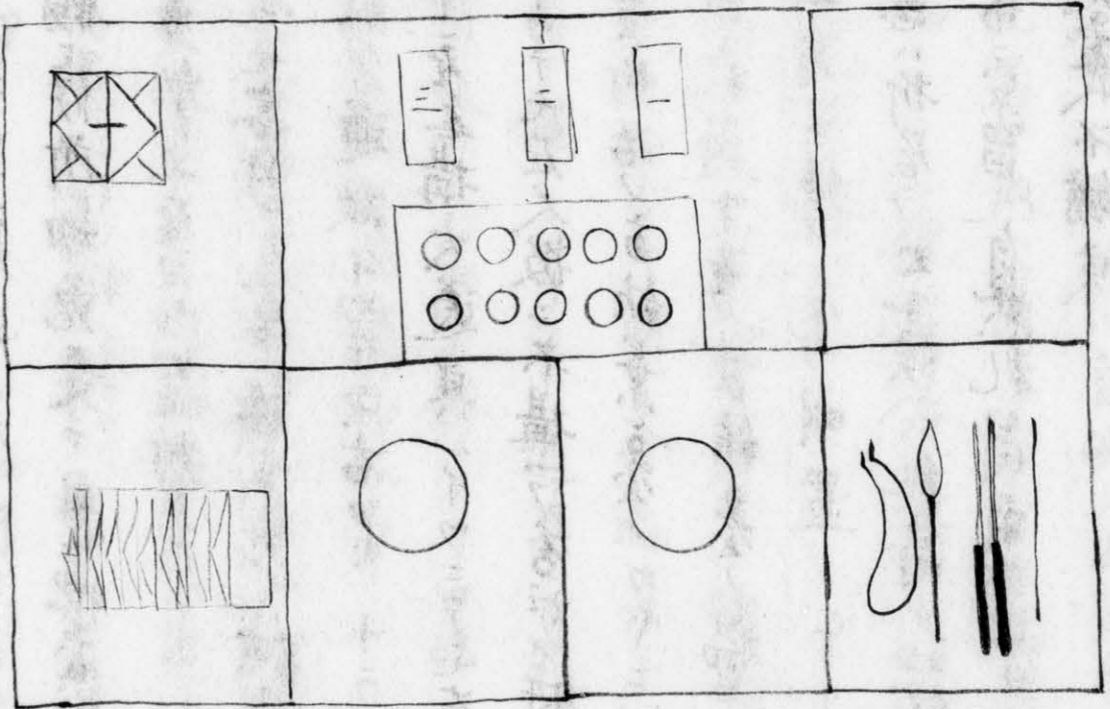
一 地衣帛飾ハ疊飾之事

地敷帛ノハ後西院帝ノ御物好表金
表銀表ニ杏竹梅鶴亀表ニ十貫ノ

地敷 干葉ノ浦ニカキラス
只地敷炭カニナリ 是ハ右峰谷家ヲ

御召ニテテ換ナル義如何可有哉左ニテ
調進致シ可申由被仰上候極彩ッ色

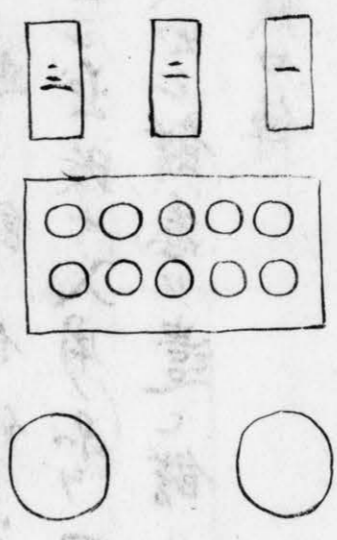
ナレハ疊ハシテ息ニキ故金銀ノ泥ヲ用ル
ナリ調進致シ指上候節家ニモ用ヒ度
願ヒ候所勅免受テ用ル地衣帛ナリ
馬炉ハ上座ヨリ必ス折居ハイッレノ勝手
ニテ七客付ナリ當ハ勝手分ニ誠言ハ書
法ノ通故イッテモ右ヨリナラフ上座
下座ニ攝火道具ハイッテモ右本多ハ
イッテモ左人数ニ不攝ニテ馬炉ノ時札筒ヲ
必ス折居ノ方執業臺ノワキニ飾ル古
法ハ札筒下座ノ方執業ノ脇ニ飾ル是
折居ノ後ノ座ヲ明置ク心ナリ今ノ作
意ハ折居ヲ必ス候ハ札筒ハ初終地衣
帛ニ不留ハ自然札筒用ヒル共當支
地衣ハ不飾候



如斯次第々々ニ饗ルナリ

疊饗ノ一古法ナリ饗リ様地敷席
 通心本香試ヲ并ヘアト志野折ニ入ナカ
 ラ饗ル尤モサシハサミハ前ニタキヒシヲ
 キ北ノ二具ニ不限入用ノ具何成リ凡
 此ニ置不若平人同輩ノ紐考ハ地敷
 席ノ通りニ饗リ付但シ火筋立立ナリ
 テ此ニ並改々入用ノ品ヲ一々遣レ候テ
 以下ハ此ニ饗悉ク遣レ饗リ終テ立テ入
 申候口傳

香子本香信...
 香子本香信...
 香子本香信...



貴人御経書志野折ノ上ニテ取扱申
 候先初ニ志野折ヲヒテキニツ斗誠
 出シ志野折ヲ横ニメ置キ其上ニ順ニ
 ナラへ銀葉モモ上ニテラへ煙也誠廻
 リ飯り候ハ札銀葉不楊ウナ知香流
 葉ヲ丹四番ノ所へ置テモアト一テ誠
 ノ銀葉ヲアケ又ニテ誠ハ公多ニ番目ノ
 銀葉ヲ丹五番目へ置テモアト一置キ
 ニテ誠ハ公多中ニ番目ノ銀葉ヲ丹六
 番へ置テモアト一置キ扱包帛ハ礼者
 ノ縁へ入サテ志野折ヲ取也ニ香十包ヲ
 出打交へ又志野折ヲ横ニ居へ其上並へ
 煙ナリ銀葉ハ下地誠ノ煙カラ入ノ上ニ不
 構置子並可申候也香ノ上へ可置

一 記録語様并記帛調様之事

香本灰ニカル時執筆記録ニ書キカ、
ル手水ハ前ニ立香本執筆共ナリ書
様ハ題号ヲ書板札名ヲ書板テ名
案ヲ書名案書キ仕録記録勝年ノ
方引置ク但ニツニ折ル其時硯ノ蓋杯
ハ札若シ並上座造ス香濟トキ記
録ヲ見シ香本ヨリ折居来ル右折居
ノ札ヲ見シニ附ニスル尤其前札若
シアツメ札シ一々々々ニ札若ハ入ル
香本ヨリ本香包来ル右モト香包ラヒ
ラキ題号ノ次ハモト書ヲ書モト香合
名々ノ二三附ニ点カケルサテ下ニ敷テ書キ
口ニ書名ニ書真月日ハ香ヲ書ク

公書ノ一ハ亭主公ニ候ハ何亭ニ於テト
斗書公書客ノ時ハ何亭ニ於テ公書
誰ト書又一日十組等ノ時ハ何亭ニ於テ
真行ト書ツカ各公香ヌ名書ツカ
貴人トシ御名案二字上テナリ地下ノ宮
人等ハ一字上テ大臣平堂上方在之時
ハ大臣家ハ札銘共ニ一段アケル平堂上
ハ一字上ル其外大納言中納言多御同
席ノ時ハ名上テ下ケナラサル故高位位
ヲ上座書記録文字ノ大小一題号ニ
月日三札銘四公書亭号ナトナリ五点
数六名案七香銘ハ二付口ヲ凡三寸
六分多ノ時ハ三寸八分上モ同横
三寸六分札銘ノ上ノ時ハ凡指二本尺

アケ平人ノハ札銘ト名案ト同シナニ書
併時宜可寄多少見合タルニ免角
題号ハ五字三字等能シ四字ハア之、
之字ニテ作畧スルナリ
記帛調様之事

記帛ハ名案帛トモ先當時ハ記帛
ト古法ハ短尺三ツ切ナリ今畧々用ユルハ
秋原奉書ニテモ十八斗ニ切ナリ文字數
多キ者ハ大キクモ切ル是ヲ四ニ折上ツク
ニ折返ス表ノ下ニ名案ヲ書中口ヨリ
三折ノニ銘々ノ聞ナリ書三ツ目ニテ余
リ候ハ四ツ目迄モ書ニ記帛物ノ時ハ
重硯ヲハス其上ニ水入記帛指ヲ添ヘ
ハス之ニ所ハ札物ノ時札同前ナリ重硯

ハ上客ヨリ次會款ノ下ノ硯ヲ取記帛
ヲ一ツ取廻ス上ノ硯ヲ取ルナシ尤貴人
ニ在位方ハ上ノ硯ヲ取取被成ナリ杓終ル
時分重硯ノ墨ヲ上座ヘ遣ス上座ヨリ
記帛ヲセ順ニ廻ス上座ノ硯ヲ取取
硯ノ上ヘ重次ヘ廻ス次々皆同所取硯
ヲ上ヘ重ルナシ

重硯遣様ノ一ハ最初ヨリ水ハワイテ
墨ヲスラヌナリ其ノ内ニヒルナリ墨ヲ多
スラヌナリ尤水少ク入ル、者ナリ
一札銘組合并名字調様之事
札銘ノ組合并先當季ヲハス又ヨリ順
々ニ季ニ出シ終リ同公度止ナリ少人
數ハ其季斗ニテモシ

華月杯ニテモ時節ノ通用ニテイウレモ
當季ヨリ用ニ秋ナラハ華方ニテモ秋
札銘ヲ遣免角當季ヨリ紐始ルナリ
札銘ニ字銘ニラレナリ

名字調様ハ一通ニテハ名某ヲ書ク上々
様ニ多ク御カ名ニ平人ノ漂徳能各十
トヲ書クハ無シ實名ナリ上々様ニ飭ルハ
女ノキハ或ハ親王方ナト宮女ハ何子ト
書ク地下宮人ハ何氏女書ク若シ同
席親子兄弟同姓アラハ何氏女誰ト
書平人ノ女ハ假名ニテ其名ヲ書文字
ニテ不可書於字杯モ不可書

一香紐之法在香銘調様之ナリ
香紐ハ巾一容ノ切者初心見送ラ可紐

初心ノ時ハ隨分聞能クワカノ候様ニ可
紐是容ノ馳走ナリ又切者ノ時余リ
分リ能モ不面白似タリ似ヨリクハ木ニテ
分リカ子候様ニ可紐係同ニ立候ハクセ
ヲカテ可紐同ククセナラハ立ラ分テ可紐
ニ色共同様ニテハ一切不分是又不真
ナリ此段能ク可心得

香銘調様ハ先當季ノ物ヲ口ハヒス其
次凡連歌ノ附肌ニテ可紐終ノ香目出
度モノヨシ是モ席ノ様子ニヨリ可有物好
香銘記録ノ端作ニ書クナリ題号ノ
編ヨリ外ハ不出ル可書

一長緒一切結解札大事
是ハ業ニテ可覺書留札ナシ志野袋

ノ紐ナト十紐多ノ時四季ニ結ヒワクル直
傳可受

一香席掛物花生死之事

此掛物ハ志躰ノ像カ其外多道ノ宗
匠ノ像又手跡ナトヲ好テカケルナリ依
多莫ノ傳受支カ格別ノ席追善ナト
ノ香ニ像ナトヲ掛テ宜シ一通ノ會ニハ宗
匠杯ノ像モ不面白ク詩哥或ハ香ニ縁
ノ有ルモノヲカケテヨシ掛物ニツイテ紐多ノ
趣向モ出来又ハ紐多ニ付テ掛物ノ趣
向モ出ルナリ或ハ卷ノ掛物ニ三千年香
ノ紐ト云ハル心ナリ客ニ依テ忌掛物有
ナリ或ハ堂上立ノ哥ノ掛物ヲ掛ルニ二條
家御門中ニ冷泉家ノ掛物掛ルモ

不買大徳寺ノ手跡ノ者モ此心得アリ大
徳寺中ニテモ南流北流ノアレハナリ勅
筆又ハ武家ナハ主人ノ筆ナトヲ掛タル
時ハ断ヲ申テ早速巻ルナリ亭主
モ辞退セシニ巻方宜キナリ跡ハ掛カヘノ
掛物ヲカクルナリ又ハ香濟テ断ヲ申テ
巻スレトモアリ時回ニヨルヘシ

生死ハ床ニ香具ヲ飭リシ時ハヒスカ宜キ
ナリ卷ヲ生トテモ有ノ悪キ死ヲ嫌フナリ
尤梅枝ナト宜キ白工ハ不苦ナリワタシシノ
時亦キ花婿礼追善ニ返リ卷ヲキラ
ハナリ又掛物ノ内ニ或ハ繪ナリハ詩哥
ニテモ死ノ有ル寸ハ生死ヲ変テセヌナリ貴
人ニカキラス時宜シテ何時モ立花モ立ナリ

一郷食應之式并一座三組之次第

會席ノ馳走不馳走ノ一ニテハニ免角
白ノ有ル物ヲ料理ニキラウナリニ當ル會
席ニハス、先ハナケレバ一座二組ノ時杯一
組濟テ會席ハス、モアリ一日十組ナトニハ
別ノ多中ニハスナリ又一組ニテモ客ノ遅ク
揃ヒ余リ時第過ナレハ多前ニハス、ナリ
跡ヲアル會席ナレハ大食大酒ヲ嗜ミ寄
主ヨリモ余リ強ヒ多量ニ酒食スクレハ
ノツカラ多ノ聞モアヒキナリ

一座二組聞、アルナリ、餘リ付ハ礼多、内ニ
志野折志野袋ニツ餘リ有レトキハ二組ト
知ルカ能シ候其通餘ヲツクレハ是派ニ
組聞ス道理ナリ、押付テ聞スルハニ

故今ハ一座ノ餘リ付ニテ置ナリ今一組
聞ント思時ハ銀葉ノ下志野袋トナ
持出ルカ宜キナリ尤速中心易席ニテハ
始ヨリ二組ノ餘リ付ニモスナリ右ノ通リ
ニテ亭主ヨリ先暫ク御休息被成ト換
撥アルトキイヤ直三組ヲ聞多客ヨリ好
メハ直ニ柱ハスカ宜キナリ尤一組濟テ又
聞ント思折ハ灰ヲカキアケテ置クナリ
右ノ通亭主ハカキアケヨカハ今一組有
心得テ宜キナリ又客カラ肴ヲ組テ来
モアルナリ然レモ客方ヨリ組テ来レハ
不礼ナリ亭主ヨリ換撥ノ上ハスカ宜
キナリ併是モ心易キ席テハ不若候又
組番ニ依テ一日ニ二組聞カサテ不面白

事セアルナリ其時ハニ終ノ銘リ附ニスルカ
匣キナリ

一同香會兼約并刻限之支

香會ノ兼約ハ一軒々々以テ帛二三日
モ以前ニ申遣スルカ匣キナリ書翰ヨリ以
テ兼約本式ナリ貴尊ノ御方杯ハ別々
書中誰成候扱右ノ手紙ヲ以テ諸方ノヒ
ニテ聞合テ弥何日相催段ヲ廻状ヲ以
テ申遣スナリ又同門杯ニテ畧スル時ハ始
ヨリ廻書ニテモ遣スナリ其ノ時ハ上客名
ヲサキ(書テ遣ヒ上座ノ人カ目ヲ究テ
廻ス次々其日限ニ心得ルナリ又何ノ用
有テ一日ニ限ル時分ニ其趣ヲ明ルカ
テ廻スカ匣キナリ月次巡會ナレハ格別

一通ノ會日ハ香會ト云ハ仰山ニキコ(テ
憑キユ来ル何日經者可相催ト書カ
匣キナリ刻限ノ一ハ余リ早キモ不匣申シ
来刻限九ツ時ニハ少遅ク行カヨロシ先
刻限無相違宣キニ半時モ遅キハ又不
礼ナリ武士醫師方ハ一時迄ハ待合スニ
主用病用ノ訣アルニナリ其入々ヨリモ
以テ申遣スカヨキ筋ナリ併此処色々
有テノ通ニモ不限ナリ

一同香亭香席禁制之事

禁制ハ多寡有之候(尾先初心十五テ
條ニテ相湊ナリ余リ長キハ寛カ子魚ニ
テノ通リ

香席法則禁制之支

一香會兼約短状後用夏集之
先由速可中並又會亭ニ用
子集ル御時宜中ニ依中
一會當日刻限無相遠以急不
下中事

一同舍亭に越し御先主一礼終て
書院鋪等母尼あ呈次者人々
先茶の會候一見可有中事
書院并リ存尼ノ別ノ秘話ニ師
説可受

一同舍亭に越先座席を尼とつし
主客通いの邪ノ威以假
片行若座ニ有交
一同舍席人好採表座し付一
之ニ下ニ稱して先末之人

一若座ニ有尤貴人宗通を核別
多り并若座一越し御香立た
一若座行等懐中紙中事
一若座為家會り之若法ニ若法他家
一若座作之若會等ニ若核別交
一若座火取座調中時執事記録
一若座認い若一若時一若核別交
一若座先主若人若多り若座定加交
一若座謝肉式礼核授之若無用
一若座新儀等若出仕若中事
一若座一若主若中ハ勿論一若礼式都
一若座上座之可為若必上若中若
一若座未座ノ核授亦可有若無用交

一番多し聞ふ之は是意ホ少合強弱
等外座を非難せし中より或は
宗匠杯を依りて可為格別也
一番聞候し礼を入誓(或は)記録
事ありて語を正し又是之聞し
何れも其意を偏し以て其意を
兼用し

一語を多し為り又是母杯のありし
御意を(或は)其意を正し我意を
しる事也

一其聞命難き之息を息し不長
聞亦可なり又聞易き麻末子
聞之礼は其意を以てしる事
一其座の色は其意を以てしる事

一其座の色は其意を以てしる事
可なり

一其座の色は其意を以てしる事
可なり

一其座の色は其意を以てしる事
可なり

一其座の色は其意を以てしる事
可なり

一其座の色は其意を以てしる事
可なり

有之如上所新延引之礼ニテ亭主客
ヨリ心巧有ル者ナリ

及刻限ニ急用ニ来申速断リ可
トモハ御楯ヒナク御始メト可中
遣ハ今世間ニ遅ク此系上可仕ト中
遣ハハ表無礼ナリ亭主ニイハテモ
相ニナトト中ハナクハナクハ
十五ヶ條開書右ノ通ナリ

尾州前守源台君香子前之御覚款

初

一香炉ニ禮ニ香四ツテ出シ

五折六銀挨拶ヲスル

仕舞候トキ

一香炉ニ折ツ、ニ、四ツキカラ

五銀六盤タテニ試ミ

十組

十種香

宗法山香

小鳥香

小草香

源氏香

死月香

競馬香

名所香

矢数香

十姓香

右別、委細記事

一十二月ノ組香ノ事

別子細ノ競香ハ五月ノ香

子日香ハ正月ト申ノ組ノ用

伏可光

香部宗信

和合香

蜂谷象香之道統

足利八代將軍義政公

世系山敷云是也

御師範

志野宗信

名三郎左衛門尉宗信

以俗名法名トス号ト松

隱軒大永二年秋八月

十八日卒又時八十有

二歳志野流元祖也

同宗温

宗信一子俗名又三郎

祐憲号ト參雨齋ト

同省巴

宗温子俗名除次郎信

堅ト云号ト不寒齋ト

蜂谷宗悟

省巴門人ト高弟隆勝ト

信ト受テ有故而志野流之

道統ヲ継ク者ト有ト系ト

初大津松本ト任ス因之

也志野松本ト云蜂谷岡

祖也号ト休齋ト

同宗因

宗悟嫡男ト一途相譲ス

宗因男子トシ女子アリ以

繩子一途附屬ス

同宗富

宗因繩子俗名能登椽云

同宗清

宗富弟俗名石見椽ト云

同宗榮

宗清一子俗名石見椽ト云亦

号ト場山ト

同宗光

宗光嫡男俗名大即云又
号宗光裔在一子甲世
依之以繩子相讀又

同勝次郎

宗光繩子今豐亮是也

朱川流香道統

志野省巴 如始筆略之

建部隆勝

省巴門人三ノ一道相傳又
織田信長公近臣号田
主裔ト

坂内宗拾

杉本彦右衛門ト云 初ノ高
人也後有吉公却近習
ト云云曾呂利是也一
流ノ隆勝之傳フ

蘭秀和尚

五山第二萬年山相國寺
之塔頭松葉軒住持芳
長老ト云宗拾ヨリ一道相
傳ス

朱川常伯

俗名小紅屋ニ右衛門一任
ト云傳ヲ得善長老朱川流
開祖也常伯孫子以繩子
一道附屬ス

同玄察

常伯甥也一道相傳又孫子
玄察メ朱川家断絶ス
以上

二十組

系圖香 古今香 燭競香
 忍香 任吉香 新月香
 三友香 星合香 三夕香
 一二三臥香 草木香 時鳥香
 鳥合香 鶯香 三躰香
 宇治香 四季歌合香 四節香
 山路香 五色香 雲月香
 蛙香 雪月死香 四季香
 雨月香 三景香 寢覺香

時雨香 春秋香 千鳥香

右別ニ開書アリ

六圓列ノ辨

伽羅 羅因 貞南賀
 去南蛮寸同多羅 作首羅
 三連並六圓の列より六品いつ
 りも沈水香なり伽羅六種
 の同上品しゆのへ絶りて

去南臺子かきすす多難の伽羅
子あふのせあふり印も又かくの
こりーいあふくばとらあふり
作説を更ふり一種を修
練すりー言巧み随く又丈ハ
こね代もむりー六種の如き
りつす大畧存る所は
とる智るりー

伽羅

まふゆやうく位ありそ

昔とまふと上品は自説と

たそやふりて優劣あり

まふたふりてあふり

経國

自説と白ひするてけり白

檀れとま白ひありて多

い昔とまふにまふりてあふり

真南賢

白ひの語く語ありてあふり

昔のこもりて上品は白ひ

くせ者雲の女のふらねくさる
の

真南雲

味耳はまのちの多し銀葉よ
油多くつるふ真南雲は志
かしたは物をも木の列もも
有する師説や文をく真南
雲は赤のこからせ初ま餘の
列もといひくたさる
氏百性の如く

寸の多経

前後の自然と破りてまの他経
もあふは物もまの流るる
破りまの品たさる地中へ
衣冠をたをわらふるの如く

佐曾経

多しいまやまりて破上品
いたたけしとからまのあふ
自然と、まの解きまのまの
まのたさるの解きまの

五味之香

平 浅間 先鋒

苦 面白 志

辛 蕙風 孟荀

酸 京極 赤梅

鹹 白鷺 遠里

此十種五味の香一味立りて
其香本とし向の然香なり
これと沁るる味のるや志は
此れも從香味り香ありしこと

此十種とて用らるる味子細あり
五味と志の香知る人かこれ
かたして志を丁とて分知
たしおろし

其の密を極白ひの丹たる

苦は黄柏の苦またる海

辛は丁香の味またる

酸は梅のすまふたる

鹹はせうの鹹またる

先右の五字をたして大
と習十 既師説と交海

新古

香の新古をわつとる為時の
人新古をとりて新古首に
酒を以て古酒又白を以て
酒と新古首の遅と古酒
新古ハも昔の酒の首のほ
子新古ハ新古首の酒を
ハ新古首の酒を以て新古首の酒

もとをふ去して残る新

もとを紙より取りて

口信子有

名香之味有也

丁一ノ名香ハ一ノ名

事有之ハ一ノ名香ハ上品

と一ノ蘭衣待子十匹ハ有

事ハ一ノ名香ハ一ノ名

花橋中川ハ其南賢其南

壺ハ其香を以て之ハ有

火子火子と書くこと
ハ何れも人の心なり
口信子有

銘書 口信子有

世後ノ銘書ハ唯此也

不考多ク銘ナルニ此字

古ニ世後ハ名ノ多ク唯

此ノ銘ニアラス名ノ多ク

ヲ書ク

吾ハ口信子有と書くこと
ハ何れも人の心なり

夏秋書子相くこと
銘ハ書に似て白ハ書小ハ
ハ何れも有春の銘なり
口信子有と書くこと
ハ何れも又口信子有と書く
有云ハ人の火合に似て口信
口信子有と書くこと
口信子有

右五ヶ條ハ本文ナリ
口信
書タリ通

六國列之傳

此傳書ハ蜂谷象代ノ傳
書三ツハナシ米川常白ノ
作書ナリ然トモ香道初
心の一助トナル書ハ蜂谷象
ニモ傳シウケテ是ノ用也
蜂谷象ハ五奥傳有之ト云
凡初心ノ因也傳難成決有
ニヨリ先北一傳リ始ニ取
ス者ハ右常白ハ師所リ

五輪傳ノ小經傳ニ在ル一任
ト云五山中ニ萬年山相傳
寺ノ塔以蘭香和尚志野道
統ニ昔長老トナリ右ノ門人
ニテ米川一流ノ開祖ニ然
上ニ甚夕香道執心ニテ鼻
孔ノホレ世ニカクレシ常白
童子甥ニ米川助ニ即玄察
ト云アリ則常白ニ相傳ス
又玄察一子ナキニ一法新

縁ス系當ノ倭ハ大系當ニ委
ニシテ書行在テ好略之
常白此書ヲ作ル大意ハ六
國ノ以ハ昔カ終ッアラハ有
之ルハ唯モ五味ノ名ヲメ
意味合知ノ書ナシ依シ常白
此書ヲ作リテ一道ノ助ト爲
者ニ

六國ト云フ本單繼目ニハ
佛書醫學ノ諸説多トイハ

凡六書ノ出所不祥又意味
モ難カ故此書ヲ以テ記号
ノ定式トナス之又此係書ヲ
テ振ニ假名交リコカキタルハ
於テ文字ヲ以テ記号述ニ付ハ
唯モ一義ニメ各地カ振ニ振
意味係書ハ却テ打見ニハ
草紙ノ口ウニ見ユレ常白
ニ更ニ奈的ニテ意味係書
令知尚好々賢家ヲ令成ト

ノ大意ハ誠ニ秘事ト信ス
コノ内ニコレト云ク尤童蒙ヲメ
ニ宣シ又六書五味ノ一ハ和
漢ノ文章ニカタトモ及カズニ
サテ全体右六書ノ語ハ依ハ
不定ハ經必ヨリハ經斗然
ニテモナシ經必ヨリハ經斗
然ニテモナシハ經必ヨリモ
經必ヨリモ然ルナルニ又ハ經
必ハイハレノ列モ然ルモアル

ハニ國ノ定メモナク土地ノ産
物ニテモナシ自然ノ氣候ニ
ヨツテ然ル白ニヨリテハ經ハ
コフニククセユハハ經トハ必
名ヲカリ用ヒテハ必ニワカル
ト云クハ尤人作ノモノニモナ
シ況水ニ變化シタルモノナレハ
ソノクセヲトリテハ必ニワケ
タルモノニメオクカ方便ニハ國
トワケタルモノハ必ノ列ト云

列ノ字ニ到テ深意アリ當時
人伽羅ラ六國ノ意名ノ指ニ
ノミコホニナリ尤カ指ノ
ハバ六必斗ニモ無之經者
テモ指ノヤヒニナリナリ
為ラ十程者ヲオホト云云
之ニ比バ伽羅ノハハ五五ハ
一向唯若リトト而已是ハ
ニモ比バハ意ニキ者ヲオホト是ハ
伽羅ニテハ有之マニモ比バハ

類カ杯トトハニハ六國同指
ヲ令知カタメ列ノミヲ入ル
ナリ則國ノ列必ノ通谷諸
候ノ威勢同シク争フ心ヲ以テ
列ノ字ヲ入レシモノ也列在
列ノタリヒモ曰指也沉水香
ハ香ノ正名ノ日本ニテ奇楠
者唐土ニテハ沉水香天竺
ニテハ梅檀香ノ正名ニハ惣
名ヲ沉水香ト云ヨシ之當時

尚家ニテハ沉水香ト斗トシ
六品イワレモ沉水香ニ惣テ
サシタレモノノ其内伽羅上品
ナリト故ハ六十一種中一ノ名
香トスソノ六十一種ノ内ニ十
七種ハ伽羅ノ此六十五ノ内
半命余伽羅ニテ伽羅ノ香
ヲ知ル由ニ種其南四五種
其明雲十種寸門ニ種伽羅
種ハ一様ノ新伽羅ニ種

六十一種ハ略六品同列ト故
ハ中ハ五品ノ内ニモ上品者
二(ハ)ノ多ク種ハハ又ニキ
タメ列ノ字ハ入ルハ次ニカレ
トモ六種ノ内キヤラハ上品ト云
スナハナニ十七種者ニテキヤラハ
六種ノ内スラシタルヲ知シム
ルナリ列メ字ハハハハハハハ
捨テサニトサヌタメノ古使
ナリ

○一種の修練才一之香ノ本
火合違エアリ六十一種ハ種
々火合違フホトク一之種
アリ修練スルハ六國別ニ定
ルホトニナルナリ一之種アリ然
レモエズ一之種アリ一之
種多クスルトキハ火合一ツニテ各
香アリケカク一之種アリ能ク
修練アル一之種アリ然レ
モ又ハ切有ク意味モトク

為安定允テ云

○所説ヲ受ベシ右ノ傳ノ通り
外ニ子細ナシ當時香道ノ道
統トナテハ蜂谷友中ニ他家
ニ到テハ断絶
○伽藍ノ内ニテモ到テ無香モア
リテ其邪ハニナトリタルモアリ
○又其形實ニテモ頂ノ名ノ
ヤリナル到テヨキ洛香アリ外
モ又其列ノモノモ外ニ一ガフ

モ、アリ 尤此一後始列ノ字
ノ所ニテ附ノ旨トモ
初メヨリノ時ニハ記登

○伽羅モ寸門多羅ノ給フノ時
有ノ所人

○寸門多羅臘梅ノ香モトハ
伽羅多クノ香ナリシヲ坂内

宗拾世ニヨリト云人 香ノクセヲ
キイタス是ヲ隆勝感心メ

寸門多羅ニキハム志野三代
隆勝近ハ伽羅多クト定メ有

寸隆勝門人宗拾改メ寸門

多羅ニキハム六十一種寸門多

羅ナカリシニ是ニテ六國後

リ香以正ニキス

伽羅

ソノサマヤサシクテ位アル所カ

伽羅ノクセ也伽羅ガ昔キ斗

ナ主ルニテナク六十一種ノ内

法花ノ耳ク鹹キ香ナレト尤

竹香ニスゲシクワリ純然先大方
十ノ内六七ハ若キ物也ト云
一又佐有テテ所ヤサキト
地下ニモ夕チヤカナルアリ堂上
ニモアレキアレト自然ト堂上
ノ人ハシレルト云一也何禮也
ニキ所アリテモ自然トミヤ
ヒヤカナル所アルニ若チ主ルチ
伽陀ト汁ハヤサシヌト他
七八程ニハ若チ主ルモ多ク

ト云一ハ官人ハ大官人ナリ
官人ニモ善悪アレト先堂上
人ノ位ト云一チ述ルニ

羅國

白モ自然トスルトキガクセ之白
檀ノコトキスルトナル句ヒアルニ
白世ノ如キ句ヒアルガクセナリ
伽陀同根ノヤウナルト云一ニテ
若キチ主ルト云武吉潔キト云

一々武士ニ堂上ヨリモ優劣ナ
アレトカクリシキト云フニ
ヒ優劣アル所ニテモイサキ
トアルヤソレヲ武士ノフトシト云
ナリ是モ所由ニスルドナシ
ニテモトシレハ種ハスルトガチ
ト云フキヤラノ意日前之

真南賀

コレモ真南賀ノ風ヲサシテ

タノモノ也匂ヒカロク純ナリ
早ク香ノウスルガ真南賀ノ
クセ也純ハワクシキノ上品ニ
テナシ下品ノ一ニテモナシ唯
真南賀ノクセ純ナレバ早ク香
ノウスルト云フニ六十一種ノ
内ニ真南賀ノ真南賀ノ堂上トス
ル者橋ヲサシテ早ク香ノウスル
ト云純接ニハタル之匂ヒハヤ
サレニテハナシ真南賀ハ殊ニ匂ヒ

花よ友之通ノカハニテ夕ユハ
白セノハヤクサルニテハヤシ香ノ
クセ元ハヤクサルト云ニテハナシ唯
古南賀ノクセカ早クサルト云
トリシメノナキハ古南賀ノ
クセナリ白ニニカキアリ六十
一種ノ内枯木中川高橋ハ
ニ返近モカハシ夕是ハ又五ニ
テハナシ名香ノ吹タノ一ナリ
蘭奢待ハナシモ夕又女ハ

恨ミヲウチツクニハイハズ心ニテ
ナモフラセトリシメナシトハシキ
ウチニアレハ外ニアラハル氣味
ナリ是古南賀ノ風ニ云モノ也

真南蠻

味再ヲ主ルト云一モ伽羅ノ
苦ヲ主ルト同シ一之古南蠻
ニテ外ノ味ヲ主ルノモアレハ
先其ヲ主ル多キト云一是

伽羅蘇由ハ同位トヤニ言次
筆紙ニモ及カタニ次才ニ切ニ
ヨウテシレトナリコト南雲
ハ其餘ノ列ヨリイヤシキト
外五等ヲ差テ云リヨソワカ
夕子バナラヌタメニ云ニカレトモ
寸ハ多程估算程ノニ要格
別タヘカタキガユハ外ニ云
ノ伽羅蘇由南賀ノ之
取トチガフテイヤシキモノト云

又油ノ多キト云ニ以外ノタ
ナニモ油アレハ油解中イハル之
ト云ハ和ノ四品ハ伽羅蘇由
南賀寸ハ多程ノ四品ハ同ニ
蜜ト同位ノ番ノ内ニテト云
ト之根葉ニ油出ルハ解香ト
同位ノ木ヲ植ケハ南雲及
クイヅル耳キナニルハ伽羅ノ苦
ミヲ及ラズル心ニテ多シト云
カ始ノ伽羅ヲウケテ云ク物

ナリ是迄四品同格ソノ内ニテ
イヤシキモノユヘ氏百性ノ如シ
トナリ

寸門多所

前^{スキ}海ニ酸^{スキ}下^{スキ}チ^{スキ}末^{スキ}ハ寸門多所
ノクセナリ六十一種ノ内稱梅
チサシテ云物種ノ如ナレト
イヤシキナリ

佐骨所

サリテモ沈水香之唯方本ハ
其クセヲ令知タメ赤梅担リ
おシタル又唯^{イキ}生木ト云脱^アレ
氏梅担ノ外又ハセシタシニテモ
沈水ヌルトキハ沈水ノ内之支放
六玉ト云赤セシタシハ五玉沈
水ニ成ナリセシタシハ唯ウノク
セハカリチ歌ハシ知シムルハ大急
ハサリケモ沈水香有ト知ベシ

匂ヒトヤ、カナルガクセノコトハ
ヘトヤ、カニ覚ユルノ則チ赤セシ
タシヤサシテヤナリテ外ハ仇
弟ノマキシレノ常白キク
テハ赤セシタシヤナリノ本ニ
タリ法隆寺太子伽藍ニカ
ツク沈水香トモ云ヘシ解香ニ
カシリ僧ノコトトハ後僧ノ
僧ノ住持テ沙門ノ三昧火定
ヲアラヒテ俗人ト違タルヲ云

是外ニカハシリト云ヘシ

○寸ノ多羅ハ紫藤ヲサシテキ
ハメヲカルノ法隆寺ヲサシテ
佐野姓ノ女トスルノ沈水
香ニ六國ノ肉ヲ佐野姓ノ
沈水セスハトハ不中ノ
サリラモ沈水セスワケナ
カ法隆寺ノコトハ何モ有ク
クハ僧ノ不覺

伽羅

古今集ノ席ノ詞ヲトリテ
人丸赤人ニタトヘタリソシハガ
ノ聖ナルニタトヘタリ赤人ハ
人丸ヲラヘニタ、ニヨトカタニ
人丸赤人ノラヘニタ、ニヨト
カタニト云ナリ 伽羅モ沈水
ノ内室上ノモノナシハ外玉
ニスワレタニヤタトヘタルモノ
ニ

羅國

傍心遍昭ト在系業年ニタトハ
ナリ遍昭ハガノサケ降タレハ
タラズ業年ハワノ心アサリテト
云ニタトフコトニ人丸赤人
ノ卵緒シタニタトヘシ
氏其サマフルトキ新チナラ
シナリ

真南賀

小野山所ニタトヘタリヨハカテズ

ワエカラズらウクシクテモスル
キ女ノ情ヲ志南賀アリセコ
夕下ヘシナリ

真南堂

文彦房属秀コタトフリノサマ
身ニサハズ商人ノ身納子
キワレヤウナリトタトフ全休
イヤシキナリ是四山ノ内ニテ
穢キ根ヲ云ナリ

寸門多死

大体黒主ニタトフ薪テ負ん
山人ノ死ノ詠ニヤスニタトフ
山賊ハ山家ノ者ナレ氏ヨコシニモ
ナクシホテニキコアル云山墨ニ
スメハ世間ノ一モシラズ又商人
ヨリモ別テイヤシキモノナレ氏
ソノ心ニシホテニキ折アルナク

依者既

毒徳法師ニタトナ秋ノ月ノ
曉ノ雲ニアヘルガコトシト云ニ
タトフ

併六品ヲトキタ凡トヤテモ古
今ノ傳ニカ、リタ凡ニテハナニ
タトヘタ凡モノナリ只リノ六品
ニ分リタ凡ヲ六儀ニテリテヘ
述ルモノナリ

五味之香

五味ノ儀六國ノ一助ニメ六
國列ヨリモ甚六ケナリ之五
味葉伎ノ香モアリ他クモナリ
カ、ナリ其ニハ五物ニ五味ノ
ナキモノハナシ其内ニ其キテ
主ルアリ若ク主ルモアリ五味
曰ルカ、ルニハ兼伎ト云蘭香
待、リシガイツシモ其キモ多クカ
酸モ多クカ辛モ多クカ出苦モ
多クカ鹹モ多クカ出、之海間

モ耳キ而也ニテモナシ五味モル
ナシ五味トモニアル之リノ内耳
キヤハ其味ノ物シタレヤナリ
五味ノ香五種不虫十種出ス
一深キ香之海間ハ初ノ辛
味有中場ヨリ前耳始ハ其
物之六味立ノ多クトス之
卵九種ハ其先蜂ハ初耳
ク中場ヨリ外ノ味ハ其之面白
ハ初ノ酸中ハヨリ末カシ

志ハ初ノ苦中ハヨリ酸ノ味
先ノ薑風ハ初ノ耳ノ味ニ中
ヨリ辛ニ其香ハ初ノ辛ニ其
卵ノ味ハ其方ハ其モナシテ
出サシニナリ早香ニ到テハ其香
ノキハ其ハ初ノ味ハ其ヤ
辛ヤラシシカタシモニ其今テ
可知前耳外ノ五味有ニテモ
一味ヲ今知ハ其善ナリニ其ヤ
ニリ智ナリテ其知ノ意也

耳苦辛酸ノ四品ハ木文ノ通
外ニ細ナシ鹹ハ其行ナリノ
塩汁ハ所流ナリケ子ハ受へ
ラシ又ナリ塩ハキノタトヘモノ
白ニニキクユヘアセリサキトク
アセトリノ塩ニミタレヤウナリ
甚暑ノ時分衣服ノ汗クサイ
油ノコガレタレ白ニアリ是膠
沈ナリ
新古

沈水香ノモトサシルテ沈水香
全体天竺震旦人倫ノ及サル
所深山幽谷ニ流氷ニホ込
木數千年ヲ經テ括末トナル
ワノ括末ノ括サル所ホ生
氣ヲ帯ルユヘ香末トナル幽谷
ナトヘ天竺ニテ流シ入り自然
又天竺ナドニテ流シ出タルヲ取
アグルトナリ又一説ニ雲國ヨリ
トリニ行トイヘモ不用前説

中用ユヘシ

沈香モ同じ沈水香ナレバ泥
中ニ数千年アリテ土氣アル
ナリ又新古ハ匂ヒニテ定ル
ワノモトヲ去ルハ松杣イヅレノ
木ニテモ沈水スルユヘモトノ木
匂ニノコルル此沈水ハ新之敷
千年ヲ過テリノ木ノ香
去ル此去ルカ古キニ本草ニ香
ハ椿ナドク成木トアリ椿ニ

カキルノナク何木ニモアリ定々
ルナリシ木目色々アルニテ可知
此木ニ巴蛇集リ居ルノ時
矢ヲ射ル巴蛇ノ沈水ヲ巻ク
ハ熱氣ノ深キモノユヘリシサマ
スタメニ巻ク沈水ハヒヤカナン
モノニカレタノアザハ巴蛇ノ巻
キタル所ア云カレタハ蜜國ヨリ
出ラレモノ之右ノ通ユヘタトハ
二百年以前ニワタツタル香

木ニテモ新アリモトナ去ル云
カキテ傳へモトナ去ル去ラス
ニテワカリ沈香ト云テ茶店
ニ膏物ニアル之出所ハ同事ノ
流砂ニ不限川ヘナガシタタカ
清水ニテ沈水ニタカ上品ノ
沉香之沼沃土産ハ唐迄先
ハ土氣カサシコミカチ氣アツテ
數千年沈水ニテモ沈水ノ
液方アリキユヘ沈水ハスレモ

仕娘ガアシキユヘ水ノ字ヲスキ
シモノナリ

名香ノ少ク有半

名香奇氣 奇妙ノ意味アリヤ
ニキ香ニハキ、ナシ
タトヘ古南雲ニテモ上
ルハキ、アリキハ杏
仁ノ匂ヲ云アシニト
云ハ唐膏ノ生ノ杏仁
ワリテキクベシ上品ノ香
ノキアアリ
キ、トトリハ名香ニテナケレハナキ
ナリ蘭奢待ノナリシノキハ

奥傳ナリ宮ニ略スキハノ一ハ
奇氣ト書ナリ花橘ハ六南賀
中川ハ六南雲之杏仁ハアズノ
夕子フワリテウキノ実ナリ
則キヤウニシノ一ナリ

洛香四季ヲ知ル事

洛香ハ六十一種ナドニテハ十三
名ノアル香ノ一之先春ノ香
トハ夕トハ青陽千代ノ春ナド
ノ香春柱クハ白乙巳之夏秋之

燈トキハアミキハ是春ノ白乙
旬ハ春ニカヨフテ外ノ季ニハ
ナトルユヘ又春ノ山辺ナドハ
夏秋之燈イテモ月ノ白乙乙
是旬ハ春ニ不通シ甲乙十三洛
カヨヒイリノ故ハ夕トハハ洛春ノ
山辺杯ハ出タル心持ル故名付
玉フハ是洛ニカヨフナリ又梅
カ香梅サク山ナドハ春燈イヨシ
外ノ季ハ燈ハ夏秋之夕ケハ

アシ是路ニカヨイテ又梅ノ
香スル香ナリ是路ニカヨフ至
テ春ノ香クヨウテ路ニ春ニメ
春ニカヨフト也梅カ香ハ梅ノ
匂ヒアリ梅サク山ハ梅ノ匂ヒ
アリテノドカナル香ナリ春燧イ
テヨシ惣ノ香路ノ引カヨリ
處アリテ勅路モアリ然シ
四季ノ香ハ路ニカヨイテカヨハ
神祇忘旅行ノ多クハカヨハ

ルセハカヨシモカルクニク香ノ路
所ツケカヨハ也甚ク奥傳
ニメ秘路ナレハ一二ナリ
秀句ニテツケシヨシ

一辺八巻ニテツケシ香一
命ハ貫テ調ハトニテ法苑
純ト付トナリ一説又家
トアテツケタカニ一説何
レモ不詳尤中名ハ秘名
ユシニラリ暑ク

都ラ六十一種ハ秘名ニハ度ニ
不可取

丹宸

丹宸和名ハ佛チワツテ火
ニタキシト云テアリリシテ
丹宸ト付ナリ

和名等ハ

和漢ノ御流詩所引家等ニテ

名付玉リシ近頃モ以テ信條

ニ居住ノ御代官多ク置居四所

鳥及不持ノ香ヲ

靈元院様上ケ御流テ院

ニニ年御トメテキ遠ケシテ

モトリシ又押カニテ山家

ハハ百葉假名ニテ

此香良木ト御付テ

シトナリ

是等ハムカシノ垣ナリ近頃

御別家ナトモ深キ言條有リ

由ニテ通リニテハ終ナリ知

是ハ春ノ路ノ御名由ニ近頃

此香ニ引家ナリテ堂上方

ニ云却テ名物不向ハ中ハ

先ハ云用ナリ

火合口傳

火合ハ冬ノ香ヲ春試ニ燒ク
トキ火合ツヨクスレハ香ヨク
出ルシ土用中ハ火合到テヨク
スルシ又ニテハ冬ノ香ハ不効ナト
六月ニ到テ又ルクニ極暑ニハ
室上ニ又ルクスルソロク七八月
ハツヨクスルニ極寒ニハ至テ火合
ツヨクスルニ初春早春ナドノ香
可考四季燒合浪葉一牧一牧

ニ牧モカサ子ニテ自由ニ浪葉

ニテ火カケテ自由ニナリ

震卦 色ニ青 味ニ酸 味ニ酸 味ニ酸
震卦 味ニ酸 味ニ酸 味ニ酸 味ニ酸
震卦 味ニ酸 味ニ酸 味ニ酸 味ニ酸

坤卦 黃土用肥 土
耳中失候 倍

離卦 赤 心 火
苦 南 舌 禮

乾卦 白 秋 肺 金
辛 酉 齒 智

坎卦 黑 冬 腎 水
北 唇 義

○醫佛儒家ノ雜文ニ首意
草木草ニサヘハニク書不
常自ガ發明トテ定成ノ利ヲ
書シテ合意ヲ多トシテ
利ニ因キ汝法ナリ天地ノ
ノ次利ハ月サヘキリ又ハ性
既ニ大極ノ大利トイハ民昔書
而色ニ至改イカテカ五ニ見
ナリ得ノ利ハ万物ノ眼スル所
ナリ性ハ道ニヨリテ成スル義

ナリ香道ニイテ此利又強カ
悟道ヲ知ラニ常白ノ發明味
ニ道ノスル所ニ能ク工夫可
有ナリ

○イナノ若水ト云本草者毛
神香道ヲウタシケレ民六五ノ
下汁ハ師家ノ系トテウケテ
松屋ト云毛崎谷家ノニク
ありナリ

一日十組ノ式 是者一日十組ヲ
一度ニシテ事ナリ

法武品ニアリ

○一日十組ノ一ハ先ニ通りノ式

アリ先一通リニハ十組已テ打

交テ裏危シテおシ是ニテ浴ク

役割ヲ定公別テモ各徳テ尚

日持系スルニハトモ是ハ古法ノ

折形ニテ甚其業をハニクキ

カユヘニ不用之是ハ唯古法ノ形

ヲ残ス物ニハ十種香箱ニ組入

至テ不討仍用トナス一貫人

尤朽形モ六ヶ度毎ニ改メ籠

カユヘナリ是ニテ一ツ

又依去小色ハ常ノ通り香子ヲ

十八ニ切改メ用ユ印色ハ志形

火小ニツ志形袋大中小ニツ思

羽色中小ニツ指枝袋一ツ香

箱ニツ入ル但シ十組ニ四季柄

文書等ニカサリノ時ハ香

雖錯カ故ニ

東福門院様所好ノ志形折大小

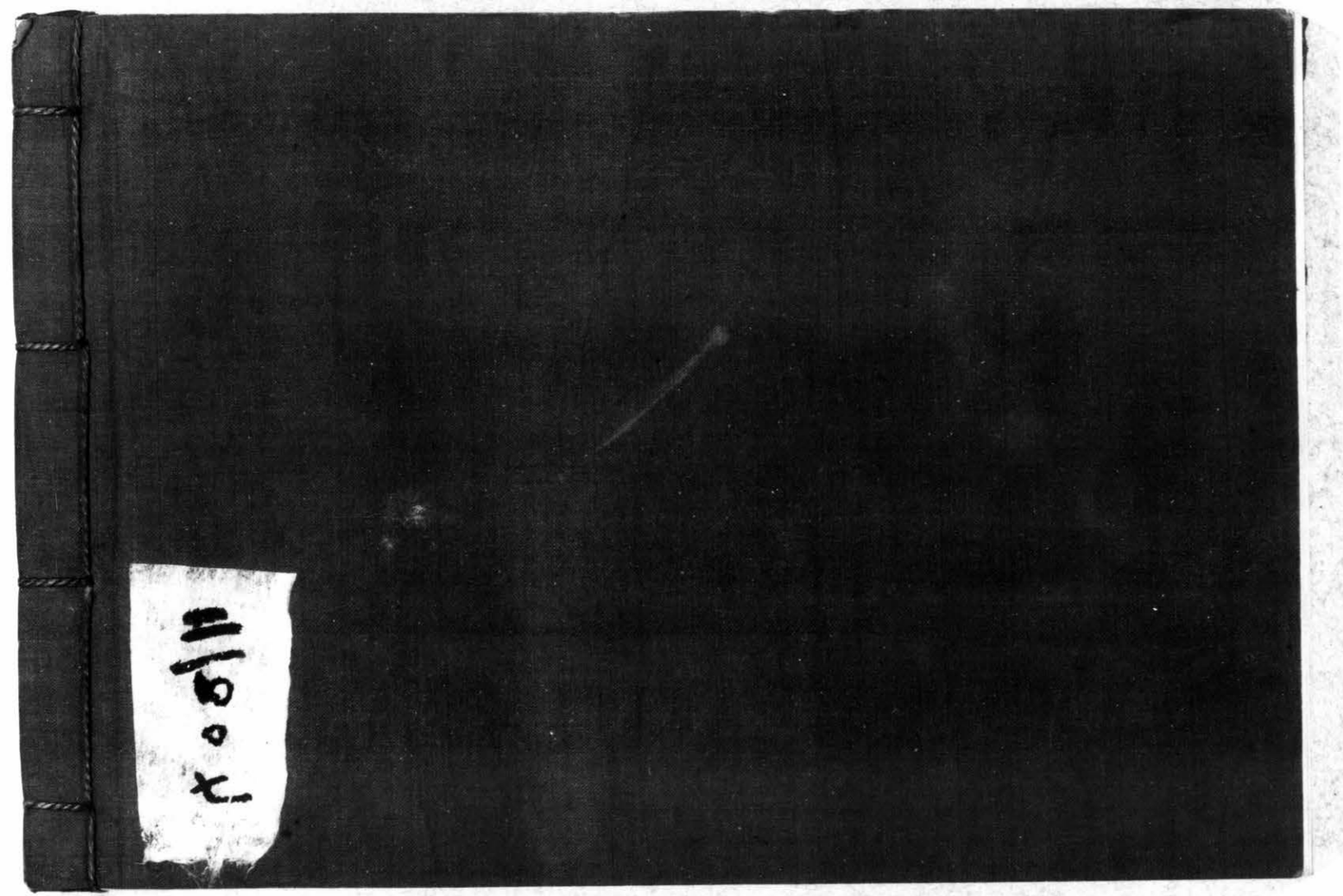
ヲ用ユ是ハ給願所云指ノ宛

此の書ハ形別ニアリ

又一ツニ指枝袋十二二月其季

于季ノ修リ花ヲサシ十袋爲
宗是錯ニ此式寫了故近代ハ大方
此錯ヲ用元也于亦當自式
ハ而ク序ノ教多ク學紙
難於皆人口傳ニ通リ用ハ
又此頃當來ニ改メ此式一ツ
方クハ錯ニ今之通リテ人々
ノ役香布ニ其座ニテ所テ發
揚子ニテ調至執筆記録子
揚子ニテ思至始ト思ハ時
喚聲ニテ毛沁ニテ毛打テ案内

又ハ之ヲ附客一箇ニ着座ニテ
香本執筆初ルハ座ニ炬燵ス
記ルニ毛終リテ布香針ニ之
支合座布揚子ノ丸ハ一ツ
一礼ノ附客一箇ニ選座元也
如部ニテハ吹子袖長ク多ク
役人毛早仕造彼氣甚揚子
眞白身定式ニ候



11904